

学校法人 東京滋慶学園 日本医歯薬専門学校 自己点検・自己評価

平成28年度自己点検自己評価(平成28年4月1日～平成29年3月31日)による

平成29年5月1日作成

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	滋慶学園グループ 日本医歯薬専門学校は、理念・目的・育成人材像を以下のように定めている。「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッション(使命)としている。同時に、【建学の理念】の実践を通じて、【4つの信頼】を得ることを目指している。 また本校では、今後の社会環境の変化・動向を鑑み以下の組織目的とした。『医療の専門職(女性)を一生サポートする学校』 女性のロングキャリア実現を目指す	・建学の理念(実学教育、人間教育、国際教育) ・4つの信頼(学生からの信頼、高等学校からの信頼、業界からの信頼、地域からの信頼)
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3	常に業界等の人材ニーズを把握し、学校・学科商品を定めている。	平成28年4月より「女性活躍推進法」が施行され、女性の社会進出はもちろん活躍推進を国が後押ししている。日本医歯薬専門学校が養成している人材は医療専門職であり、さらにその活躍の場が拡大することを見据えた学校運営・学生サポートをしていく。
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3	ミッションや理念は教育指導要領、学生便覧に記載されており、研修等で教職員や講師に至るまで周知し、特色ある教育活動の取組みが図られている。また、学外に向けては、ホームページや学校パンフレット、オープンキャンパスなどを通じて理解して頂くことに努めている。	文部科学省(中央教育審議会答申)を中心とした取組みにもあるように、職業観、勤労観を身につけ、「自立や仕事に必要な力の基盤を育てる」ためにも、入学前の時期から在学中、さらに卒業後に至るまでの期間をキャリア教育の場と捉え、一貫した内容でのフロー教育を組み立てていくことが必要である。
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3	今後も社会の変化に対応していくためにも、キャリア教育の視点を組み込んだプログラムの整備にも着手し、入学前～在学中～卒業後の期間を通じてのフロー教育を実施を計画している。	平成29年度4月より、業界からの要望を受け「視能訓練士」養成学科(Ⅰ部・Ⅱ部)を開講する。
2 学校運営	2-2 理念に沿った運営方針を定めているか	3	明文化、文章化され定められた運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に会議や研修を通じて周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間を通じて力を入れている。	学校で定めた運営方針・実行方針に基づき、具体的なアクションプランである実行計画を策定するが、その策定に関しては実際の現場担当者が運営方針・実行方針と統合した上で作成している。
	2-3 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3	運営方針同様、明文化、文章化され定められた事業計画を基に、学校運営に関わる全ての人に会議や研修を通じて周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間を通じて力を入れている。	事業計画達成に向けてのチェックはそれぞれの現場の責任者から構成される運営会議により、月2回実施している。
	2-4 設置法人は学校運営のための組織を整備し、組織運営を適切に行っているか	3	意思決定システムは事業計画に会議として明文化し、確立されている。また、会議は教職員の研修の場でもあると考えている。問題を早期に発見した後の数字分析、仮説、立案、実行、検証の思考サイクルは、様々な業務の場面に役に立てられている。	会議は 1. 法人理事会・評議員会 2. 学校戦略会議 3. 法人学校運営会議 4. 運営会議(学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議) 5. 学校全体会議(決定事項の周知) 6. 学校学科会議・部署会議(部署の問題解決会議)7. グループ各委員会会議8. 様々なプロジェクトの会議がある。
	2-5 人事・給与に関する制度を整備しているか	3	採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準のもと、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、最も力を入れている。そして、目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定が行われている。	数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務も過程を評価できるよう「プロセス評価」を導入している。目標は常に、健全な学校運営・学科運営を実現できているかの視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようにしている。また、職員の職場に関するアンケートにより職場環境の改善にも着手している。
	2-6 意思決定システムを整備しているか	3	意思決定に関しては、決定事項の優先順位付けと意思決定を行う機関を明確にしている。また、毎年短期的、中長期的視点に立っての事業計画の策定を行っていることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。	意思決定機能については、それぞれの「会議」がその役割を果たすが、決定事項に関しては「議事録」を残し、学校全体で共有できる仕組みとなっている。

	2-7 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	3	業務のマニュアル化とシステム化が推進されたことと、グループ内のコンピュータ関連会社の協力により、個別ごとのセクションの情報システム化・効率化は推進されている。	学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にブレがないようにシステム構築をしている。
--	-----------------------------------	---	---	---

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられている。 各学科の教育目標、育成人材像は、常に業界のニーズを反映させるため、毎年上半期終了時点から業界・学科・競合校の各調査に着手し、それらから業界ニーズを読み取り、確実に応えられる教育目標、育成人材像を設定している。	人材ニーズの変化や業界そのものの変化に伴う学科の養成目的/教育目的の見直しやカリキュラムの再構築に専従的に関わるファカルティ・ディベロプメント・コーディネーター（FDC）が組織されており、定期的に会議の中で学科の運営状況をチェックする機能を持っている。職業実践専門課程の認定を受ける際に業界との連携をさらに強化している。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められている。	
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	カリキュラムの編成に関しては、養成目的・教育目標を定め、その上で学期ごとの到達目標へと落とし込んでいる。さらに学期目標を達成するために必要な科目を設定することにより適正な配置がなされている。	
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3	在校生に関しては授業アンケート、卒業生に関しては同窓会、関連業界に関しては担当部署であるキャリアセンターが中心になり、意見聴取を行っている。 また教育課程編成委員会により、各学科に関連する業界関係者からの評価や意見聴取を行っている。	授業アンケートは学期毎実施し、それぞれの結果を分析している。また、教育課程編成委員会とは別に、学科別のカリキュラムへの意見交換会（科目連絡会）を実施し、教育課程へ反映させている。
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	現在実施している様々なプログラムを、キャリア教育の視点を持って体系的に組み直すことで、より効果的なキャリア教育を提供する事ができている。	学園グループのキャリア教育に対する考え方をまとめた「キャリア教育ロードマップ」を作成し、それに基きプログラムを構築している。
	3-9-4 授業評価を実施しているか	3	授業アンケートとオープン授業を通して、授業評価を実施しているが、受ける学生の視点と、行う講師の視点の2つを重視している。授業アンケートとオープン授業によって明らかになった授業改善点については、講師面談を通じて、担当講師へのフィードバックを行っている。	アンケート内容は下記の4区分16問に自由意見を加えた形式としている。 区分1) 授業内容 5問 区分2) 授業手法と教員の行動 5問 区分3) 教育効果 3問 区分4) 学生の行動 3問
	3-10 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	成績評価と単位認定の基準は、学則および学則施行細則によって明文化されており、教育指導要領及び学生便覧にしっかりと明記し、職員や講師、学生に周知徹底している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。	各科目について、定期試験および小テストでAからEの5段階評価を行う。A・B・Cを合格とし、D・Eを不合格とする。科目の評価は、定期試験にて評価する。 科目の評価が不合格（59～0点）の者もしくは欠席した者については、再試験を行い、その評価は最高Cとする。
	3-11 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか 資格取得の指導体制はあるか	3	取得目標資格について、教育指導要領及び学生便覧に明記し周知している。各学科における資格検定は100%合格を目標に直前対策を実施。また個別フォローを行ったが、歯科衛生士国家試験に関して不合格者を複数出す結果となった。これまでの対策スケジュールや直前期の個別対応では太刀打ちできなくなってきたのが現状である。入学（前）時からの経年での教育フロー体制が必要という認識はあるが、指導体制は十分ではない。	滋慶学園グループのグループ力を活かし、学校、学科を超えて受験サポートを行う組織として国家試験対策センターを設置している。このセンターは合格率の向上を目的とし、様々な活動（Eラーニングの運用、過去問題分析、オリジナルテキストの作成、模擬試験の作成・実施など）を行っている。
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	学科の教育目標を達成するために、その分野のスペシャリストであると同時に法で定められた要件を満たしていることを講師採用の基準に据えている。採用講師に対しては、講師会議や科目連絡会を通して、授業運営上の留意点、成功事例、学校の理念、望む方向性、養成したい人物像等を共有し、コンセンサスを図っている。	講師との共有資料として、下記が挙げられる。 ①講師契約書 ②学年暦 ③時間割 ④教育指導要領 ⑤科目シラバス ⑥国家試験出題基準
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	3	講師対象の研修・会議において授業技術の向上に繋がる内容を取り入れている。かつ、オープン授業、授業アンケートを実施している。	オープン授業および授業アンケートの目的は共通して教育力の向上であり、オープン授業は講師または常勤スタッフの授業をFDC等評価し良い点、改善点をフィードバックする。授業アンケートは16問を数値化し項目の課題と自由記述を各講師へフィードバックする。
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	3	事業計画の中に組織図、職務分掌などを明記し、毎年、それぞれの部署で組織役割表を作成して業務分担や責任体制を明確にしている。 また、講師会議や科目連絡会議によって専任・兼任の連携、協力体制を構築し、授業アンケートの実施およびフィードバックに取り組んでいる。	

4 教育成果	4-13 就職率の向上が図られているか	3	開校以来、就職希望者の内定率は100%を維持できている。また取得した資格や学んだ知識、習得した技術を活かせる現場への就職(専門職就職)も、95%前後の高い水準を維持することができている。 これらはキャリアセンターと教務スタッフが、年度当初の目標設定から学生の内定獲得まで、常に連携を図りながら活動をしている。	キャリアセンター…就職に関する相談室であるキャリアセンターの目的は①入学希望者には就職活動や卒業後に対する具体的なイメージを持ってもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。②在校生に対して就職支援(面接時におけるスキルアップ指導や筆記試験対策の実施等)を行う。③同窓生(卒業生)に対しては、就職した後にさらなるキャリアアップを考え、実務レベルのスキルアップ講座の提供や再就職支援を実施する。④キャリアコンサルタントを配置して、やりがいやメリットについて、個別指導を通じて伝える。
	4-14 資格・免許の取得率の向上が図られているか	1	各学科で資格取得の目標を達成するために、対策講座を設け実施している。 歯科衛生士国家試験においては、過去最悪の結果となる。 【全国平均合格率:93.3% 全国平均新卒合格率:95.3%】 ・歯科衛生士学科Ⅰ部新卒合格率:82.5% ・歯科衛生士学科Ⅱ部新卒合格率:98.5%	現状を見つめ、抜本的な指導体制の改革が必要といえる。「個人の力量で対応」「直前対策で引き上げる」といった旧来のやりかたではもはや通用しない事が証明された結果となる。次年度に向けて不合格者の支援も同時に行っていく。 新学科(視能訓練士)の国家試験対策もH29年度より実施する。
	4-15 卒業生の社会的評価を把握しているか	2	卒業生の活躍は求人票や実習先の多さにも現れている。今後は卒業生の業界での活躍を学校として確実に把握していく。H28年度に実施した同窓会では、100名近い卒業生が参加し卒業生の状況把握において一定の成果をあげた。	同窓会活動の促しや、卒業生との関係構築が課題。復職支援のためのセミナーや求人紹介も積極的に行っていく。 また昨年より開始した全卒業生の就職先訪問を継続実施する。
5 学生支援	5-16 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	進路支援体制は整備できている。就職等の進路支援は、年間目標ならびに年間行動計画を立てて実施している。全体指導に加えて、個別指導を行っている。全体での求人倍率は10倍前後で売り手市場となっている。キャリアセンターでは、業界の情報収集を徹底し、求人時期と求職時期(実習等のカリキュラムと連動する)を、マッチングさせる対応を強化している。	業界の人事担当者を招いての学内模擬面接会 全体指導のための就職講座をフロー化と一人ひとりの学生のための就職委員会の設置 充実のキャリアセンター組織 ・キャリアコーディネーター(常勤)2名 ・キャリアコンサルタント(非常勤週1回)1名
	5-17 退学率の低減が図られているか	2	退学率は低減が図られているものの十分ではない。学園グループ全体の退学理由傾向を分析し、学生の「学習意欲」と「精神面」の双方から支援の方向付けを検討する材料となる「サポートアンケート」を実施している。退学率の低減のため授業欠席者・長期欠席者・休学者の個別対応や長期休み前(ゴールデンウィーク・夏休み等)の対策などに取り組んでいる。	学生の進路変更に対応するため、学園グループ横断的に「進路変更委員会」を設置し、中途退学から新たな進路へと向かうための仕組みを構築している。(中途退学率:4.4%)
	5-18 学生相談に関する体制を整備しているか 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	学校内に「学生相談室」を設置したことで、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制が整備され、有効に機能している。 留学生に対する相談体制を整備している。学内では事務管理を中心とした担当、および就職、学習支援の担当を設置し、本部機能として留学生センターがあり、生活面等はセンターに所属しているスタッフ(外国人)が対応している。	学生相談室では専門のカウンセラーが対応にあたっている。教職員全員に研修を実施。特に、カウンセリング研修では学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESC認定教員カウンセラー資格」を全員に受講させ試験を実施することでカウンセリング技術の均一化を図っている。
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3	経済的支援体制が整備されている。入学前から入試事務局、学費担当者が一人ひとりの相談を受け、一人ひとりに合った経済的支援と一緒に考えている。保護者の相談も合わせて行っており、在学中も定期的な学費相談を実施している。経済的負担により進学を断念することのないよう、支援ができています。	下記2点の独自の学費サポート制度を取り入れている。 ・日本学生支援機構奨学金予約採用サポートシステム ・ワーク&スタディ10万円入学プラン(詳細は7-25参照)
	5-19-2 学生の健康管理を担う体制を整備しているか	3	滋慶学園グループ内医院である「慶生会クリニック」が、学生の身体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。安心して受診できる体制が、かなり高いレベルで機能している。また年1回の健康診断や2次検診等、細かくフォローしている。	精神面の健康管理については、「滋慶トータルサポートセンター」を中心に、本校に「学生相談室」を設置し、学生生活全般における不安や悩みの相談に乗っている。
	5-19-3 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3	課外活動の支援体制を地域振興ボランティアへの参加を中心に整備している。地域と共に発展していく学校として、地元の行事にも積極的に参加をしている。教職員とともに学生ボランティアも参加し案内・清掃活動他を実施している。	各種地域イベントに参加実績がある(10-36-1、10-37参照)。
	5-19-4 学生寮の設置など生活環境への支援体制を整備しているか	3	提携不動産会社などと連携を図り、生活環境の改善に努めて支援体制を整備している。また、カウンセラーを学内、学外に配置し、悩みがある場合に速やかに相談ができる環境を整えている。一人暮らしをする学生支援のために「一人暮らしコンシェルジュ」を配置している。一人暮らしを初めてする学生の相談役となっている。また新入生を対象に「一人暮らしセミナー」を4月に開催している。内容は、杉並警察署との連携による防犯教育、ネット犯罪等で被害者・加害者にならないための啓蒙を実施。	
	5-20 保護者との連携体制を構築しているか	3	保護者との連携体制を構築している。出席状況その他で問題が見られた場合には、即保護者と連絡を取り、状況の共有を図っている。必要に応じ、保護者と学生を交えた三者面談も行っている。また、年4回成績の発送を行っている。これを通じて定期的に学習進捗の確認を行ってもらえるような体制を整えている。	入学式や卒業式において保護者会を実施し、学事報告を行っている。

	5-21 卒業生への支援体制を整備しているか 産学連携による卒業後の再教育プログラムの 開発・実施に取り組んでいるか 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備して いるか	3	<p>卒業生への支援体制は整備されている。卒業生のキャリア開発は母校の役割、責任として捉えている。業界から恒常的な信頼を得るためにも、卒業生の活躍は不可欠である。そのための一助となるよう、同窓会活動では、交流によるネットワーク拡大を図り、同窓会総会を開催した。</p> <p>卒業後の再教育プログラムを業界と連携して実施している。技術講習会や卒業生講師制度、聴講生制度を整えている。</p> <p>社会人のニーズである学費支援を中心に、教育環境を整備している。教育訓練給付金講座の認定、働きながら学べる「ワーク&スタディシステム」の構築を行ってきた。</p>	<p>ロングキャリアを実現するために</p> <ul style="list-style-type: none">・卒後のキャリア開発を目指す技術講習会・再就職支援の復職セミナー・キャリアセンターによる再雇用求人紹介
--	---	---	---	--

6	教育環境	6-22 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	施設・設備・教育用具等を必要性に対応して整備できている。実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室は「現場を再現する」という視点で整備を行なっている。この実習室で授業を行なってから現場実習に臨むので、皆スムーズに実習をスタートさせる事ができている。 図書室や実習室などの学習支援施設をはじめ、手洗いなどの施設も十分に整っている。 実習室の機器等に関しては点検・整備などの対応も適切に行っており、事業計画によって改築・改修・更新計画をしっかりと立てている。	歯科治療ユニットが13台配置されている。よって実習授業では、学生3人で1台のユニットを使用している。これにより、歯科衛生士、歯科医師、患者のそれぞれを体験する授業においては、常にいずれかの役を体験ができるようになっている。結果として高い教育効果を得ることとなっている。 昨年度よりファントム実習室を設置し、歯科予防処置や診療補助の授業をより実践的に学ぶことができる環境を整えている。 また、新設で視能訓練実習室他を設置している。
		6-23 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	学外実習・インターンシップ・海外研修の実施は、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」を高いレベルで具現化しており、実施体制を整備している。各学科の養成目的・教育目標に照らしてその教育効果は極めて高いと考えており、その体制もできあがっている。	平成28年度 海外研修実績 ・歯科衛生士学科:アメリカ(ハワイ)参加者:9名
		6-24 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災組織を整備しかつ、適切に運用できている。毎年4月、教職員、学生への防災訓練を実施、地震や火災の際の避難経路を常に確認するなど、体制整備とチェックを重視している。現状、災害時の最低限の準備と教職員、学生への動機付けは図られている。 学内の安全管理体制を整備しかつ、適切に運用している。救急時における知識の習得と意識付けは、AEDや心肺蘇生法の講習会を通じて、十分に行われている。入り口を無人にしないようシフトを組んで受付に常駐、および午後から夜間にかけて専属の担当を置いている。また、危険物の管理に関しても同様である。	・緊急地震速報を設置し、いざという時に備えている。 ・安否確認システムを構築し、万一の際の学生の安否確認の一助としている。 ・サバイバルキットを全学生数分+ α 備えており、万が一の場合の3日間分の食料、水、防寒への対策を立てている。 ・スタッフ用ヘルメットの設置
7	学生の募集と受け入れ	7-25 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	3	募集活動は学園グループ全体の考え方である「入学前教育」であると同時に「キャリア形成段階」という点を踏まえ、志望者の状態に合わせたカウンセリングが実施できるように各スタッフに対して研修を実施している。よって、学生募集活動は、学則を基に、その年の入学案内、募集要項の通り、適正に行われている。また、学内に広告倫理委員会を設置し、広報活動の適正さをチェックしている。	H28年度学生募集 目標220名に対して実績221名 広報目標達成となる。
		7-26 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	入学選考に関しては、アドミッションポリシー・選考方法等を募集要項に明示し、決められた日程に実施している。入学試験後は、全学科長以上により構成される、「選考会議」により、学則および募集要項に明記してある基準に基づいて可否を確定している。 面接結果、書類内容の結果を踏まえ、将来医療・歯科医療業界で働くことに適性があるかを総合的に判断している。また、学科ごとの各種データおよび入学者の予測数値等は広報会議や運営会議で随時確認し5年毎の予算計画を毎年更新するとともに、授業改善や事業計画作成に活用している。	将来の希望分野への適性をきちんと見極めるため、面接の比重を多くしている。結果として、学力のみにとられない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。
		7-27 経費内容に対応し、学納金を算定しているか 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	3	収入と支出が適正かをチェックし、その上で学費の見直しを毎年実施するようにしている。また、募集要項に全て明示しており、辞退者等への対応は東京都専修学校各種学校協会のルールを基準としているため、学納金は適正かつ妥当なものである。 入学辞退者に対する対応は、募集要項に返還についての取扱方法を記載し、入学辞退の意思表示をされた方に対する対応を適正に行っている。	H29年度より、学則に学納金詳細を明記し、さらなる透明性を図る。

8 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	右記にあるような厳しいチェックならびに評価を行っている。結果として債務超過や資金不足に陥ったりはしていない。よって、中長期的には財務基盤は安定し、学校運営も安定している。	以下のチェック機能がある。 事業計画(財務計画・収支予算書) 1. 学園本部によるチェックと理事会・評議員会による承認 2. 四半期ごとの学園本部によるチェック 3. 修正予算の作成:学園本部によるチェックと理事会・評議員会による承認 4. 計算書類の作成と学園本部によるチェック 5. 監事および公認会計士による監査 6. 計算書類、事業報告書の理事会・評議員会による承認
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3	特に財務数値に関しては、財務専門の部門が右記のようなタイミングで様々な分析・計画等を行い、適切な学校運営ができるような管理を実施している。	
	8-29 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	2	予算編成の方法については教育目標を踏まえた上で短期的と中長期的それぞれの視点に立ち、5年先を見越し、中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックする為、より現実在即した予算編成になっている。また、運営会議の中で予算のチェックも実施している。「予算書＝決算書」(計画の時点で精度の高い予算を立てるという考え)という方針の下、執行している。	「当初予算」→「四半期予算・実績対比」→「修正予算」→「決算」という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。 当初予算の基となる「学生数目標」と「学生数実績」との差異が生じないよう、精度の高い目標(予算)設定がより求められる。
	8-30 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けている。	補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。
	8-31 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	財務体制の整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後も、いかなる法改正にも迅速に対応していくことができる組織体制を維持していく。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。
9 法 令 等 の 遵 守	9-32 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	監事監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化され、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完了している。 また、教職員への啓蒙として、法令や設置基準の遵守に対する教育または研修は、学校責任者と実務担当者でプログラムを構築し、行っている。	法改正に準じその都度対応している。
	9-33 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	個人情報保護の体制は完了している。 外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。	
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	私立専門学校等評価研究機構に加盟しており、その基準をもとに毎年継続して自己点検・自己評価、学校関係者評価委員会を計画的に実施している。	
	9-34-2 自己点検・自己評価結果を公開しているか	3	平成26年度より評価結果を公開している。	
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	平成25年度より学校関係者評価委員会を立ち上げ、適切な委員の選定と委員会の実施に取り組んでいる。	
	9-34-4 学校関係者評価結果を公開しているか	3	平成26年度より評価結果を公開している。	
	9-35 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	現状でもHP等で公開しているが、職業実践専門課程として認可を受けている学科についても、公開内容を精査・更新している。	

10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	地域と共に発展していく学校として、地元の行事にも積極的に参加をしている。教職員とともに学生ボランティアも参加し案内・清掃活動他を実施している。 さらに、社会・環境問題に対しても取組みも始めている。主に節電対策を実施している。	・地域の小学校・保育所等へのブラッシング指導 ・杉並区歯科医師会主催の『よい歯ファミリーフェスティバル』 ・高円寺阿波踊り時の地域の方への学校開放 ・節電に対する各種取組み[代表的なものとして期間延長(5月1日～10月31日)のクールビズ活動、エレベータの使用頻度を抑える2アップ3ダウン運動の推進、教室・職員室の空調機の温度設定(夏季:28度、冬季20度)の徹底、夜間照明の消灯等] 今後更に地域行事に積極的に参加をし、地域歯科医療に貢献すると同時に催事にもかかわり地域の信頼をより強固にしていく。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	2	国際交流や留学生受入れに関しては、一過性のものを実行してきてはいるが、体系的に方針を立て、規定を策定し、システム化するところまでは至っていない。	H28年度 留学生実績 ・歯科衛生士学科Ⅰ部:2名(中国、台湾) ・医療秘書学科:1名(フィリピン) H28年度 海外研修 ・歯科衛生士学科:アメリカ(ハワイ)参加者:9名
	10-37 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	社会貢献や地域貢献に関しては、杉並区や高円寺の行事を年間で把握し、学内プロジェクトを立ち上げ、教職員・学生の参加が活発化している。	地域行事に対して、ボランティア参加実績は以下の通りである。 ＜H28年度 地域ボランティア実績＞ ・高円寺阿波踊りボランティア ・高円寺フェスボランティア ・高円寺びっくり大道芸ボランティア